シンポジウム「女性会員の協会活動参画の促進－活躍の現状を知る」の概要

1　名称
シンポジウム「女性会員の協会活動参画の促進－活躍の現状を知る」

2　目的
わが国では女性が輝く日本を目指し「女性活躍推進法」が施行された。65％を女性会員で占める本会においても女性の参画を継続的に推進する必要がある。本シンポジウムでは国の動向を知り、本会における女性活躍推進への取り組みの歴史を追うとともに、臨床現場で活躍する女性会員からの報告を交えながら「女性会員が活躍できる職能団体」に向けた意見交換を実施する

3　開催日時
平成 28 年 9 月 10 日（土）18：00～19：30

4　使用施設（開催場所）
ホテルさっぽろ芸文館　ニトリ文化ホール
（所在地：北海道札幌市中央区北 1 条西 12 丁目）

5　対象・定員
作業療法士、リハビリテーション関係他職種　200 名

6　参加費　無料

7　議事次第及び出席者
(1)　18:00　司会挨拶
一般社団法人日本作業療法士協会 常務理事（女性会員の協会活動参画を促進するための事業担当）　宇田　薫
(2)　18:05　講演
「女性の活躍を促進する政府の取組について」
内閣府男女共同参画局　推進課　上席政策調査員　原田 麻里 氏
(3)　18:40～19:30　講演及びパネルディスカッション
18:40～18:55「日本作業療法士協会における女性への取り組みの歴史」
一般社団法人日本作業療法士協会 副会長（女性会員の協会活動参画を促進するための事業担当）　香山 明美
18:55～19:10「臨床現場で活躍する女性会員からの報告」
三菱京都病院 作業療法士　後藤 友美
19:10～19:30　パネルディスカッション

８　主催団体

一般社団法人日本作業療法士協会

９　広報

ホームページ、機関誌『日本作業療法士協会誌』、他

１０　事故及び衛生管理のための措置

事故防止措置及び公衆衛生措置については、会場の施設利用規則・防災指針を遵守する。

協会企画シンポジウム1　9月10日(土)　18:00～19:30　メイン会場

女性会員の協会活動参画の促進

【概要未入稿】

司会
宇田　薫　日本作業療法士協会 常務理事 / 医療法人おもと会
Xxxxxxx Xxxxxx　*Xxxxxxxxxxxx*

◆シンポジスト
原田　麻里　内閣府 男女共同参画局 推進課 上席政策調査員
Mari Harada
Senior Policy Researcher, Gender Equality Bureau, Cabinet Office

女性の活躍推進に関する政府の取組
Policy measures of women's participation and advancement

女性も男性も全ての個人が互いを尊重し，性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は，日本社会の多様性と活力を高め，力強く発展していくために極めて重要です．

男女共同参画局では，男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）第13条に基づき，5年ごとに男女共同参画基本計画を策定しており，昨年12月には「第4次男女共同参画基本計画」を閣議決定しました．女性の活躍や安全・安心な暮らしの実現等に関して，12の分野ごとに必要な具体策を取りまとめるとともに，2020年を見据えた成果目標を掲げたところです．また，本年5月には政策パッケージである「女性活躍加速のための重点方針2016」を決定し，各界各層を広く巻き込んだ取組を進めています．本年4月からはいわゆる「女性活躍推進法」が完全施行されるなど，女性の活躍推進に向けた取組は一層加速化しています．

こうした動きを踏まえ，我が国における女性の活躍や男女共同参画の状況について様々な角度から触れるとともに，政府の女性の活躍推進等に関する施策について述べていきます．

◆略歴

2006年東京理科大学卒業，同年株式会社日立システムアンドサービス（現　日立ソリューションズ）入社．ネットワークセキュリティエンジニア，マーケティングを経て，セールスエンジニアとして主に製造業の業務システムやインフラシステムの提案に従事．業務の傍ら社内改善活動や女性社員のネットワーキング活動にも携わるほか，中高生向けキャリア教育を行うNPO法人活動も行う．2016年より内閣府男女共同参画局に着任．担当は女性活躍推進（特に科学技術・学術分野），ワークライフバランス推進，男性の家事育児参画推進等．

◆シンポジスト
香山　明美　日本作業療法士協会 副会長 / みやぎ心のケアセンター
Akemi Kayama
Vice President, Japanese Association Occupational Therapists / Miyagi Disaster Mental Heaith Care Center

女性会員の協会活動参画の促進に向けて
Promotion of women members of the Association activity participation

作業療法士は世界的に見ても女性が多数を占める職種である．世界作業療法士連盟の統計資料によると，71ヵ国中，女性会員が90%以上を占める国は全体の約半数にあたる35ヵ国である．わが国は他国に比べて男性作業療法士の割合が高く，年々男性会員の比率が微増する傾向にあるが，2014年度末現在，女性会員が63.7%を占めている．協会活動においても，2015年7月現在，協会の各部・委員会等に所属する会員661名中女性は215名（32.5%）であった．代議員（2015～2019年）でも212名中，女性は30名（14.2%）と大幅に減っている．役員（理事・監事）は，設立時には8割（20名中16名＝80%）が女性であったが，現在は1割（26名中3名＝11.5%）となっている．こうした状況を踏まえて，協会は第二次作業療法5ヵ年戦略の中で，「会員の65%を占める女性会員が今まで以上に協会活動に参画できるよう，さまざまな条件整備を進めていく．特に代議員ならびに協会理事への参画を促進する必要がある」と指摘し，「女性会員の協会活動への参画を促進する」を行動目標83番として掲げた．

協会はこれまで，1）機関誌での連載コラム「【窓】女性会員のためのページ」を設置，42回掲載．2）宮崎学会での女性会員向けアンケート調査（2012年），3）休会制度の創設（2013年），4）「復職への不安軽減研修会」の開催（2013年・2014年），5）女性会員の協会活動参画促進に関する都道府県士会アンケート調査（2014年），6）「女性会員の協会活動参画を促進するための方策検討会」を開催（2015）．「女性会員の協会活動参画を促進するための提案」が起草，平成27年度第7回理事会で承認．目標1「一旦退職しても安心して復職でき，子育て中でも研修会等に参加できるなど，作業療法士として働き続けられる環境を整備する」目標2「女性代議員（H31年～）・協会役員（H31年以降）の女性割合に数値目標（例えば30%）を掲げて実現させる」こととし，今後4年

間（2015年～2018年）を準備期間と位置づけ，様々な準備行動を開始していくこととなった．本シンポジウムもこの事業の一環として実施している．

◆略歴

1983年　宮城県立名取病院勤務
2003年　宮城県立精神医療センター 社会復帰科 作業療法係長
2006年　同 リハビリテーション科長
2011年　地方独立行政法人県立病院機構 宮城県立精神医療センター リハビリテーション科長（上席主任作業療法士）
2014年　同 地域支援科長兼訪問看護ステーション長
2016年　みやぎ心のケアセンター 地域支援課長補佐
2015年　日本作業療法士協会 副会長

◆シンポジスト

後藤　友美　三菱京都病院
Tomomi Goto　*Mistubishi Kyoto Hospital*

【未入稿】

協会誌に連載されている「窓」を毎回楽しみに拝読している．内容の大半は「妊娠・出産・育児」経験者によるものであるが，みなさん悩み苦労された過去・現在があっても，決して悲観的になっていない．そのような生き方が私にはとても支えになっている．

2015年秋に第1子長女を出産，娘が生後3か月の時に離婚を経験し，生後10か月の頃から保育園に預け職場復帰することとなった．

復職をした当時は，現場を離れた不安は想像以上に大きく，冷や汗が止まらなかったことを今でも覚えている．その時の私を救ってくれたのが「大丈夫．復職したての頃はみんなそんなものよ．ゆっくりやっていこう．」という先輩ママセラピストからの一言であった．職場復帰以外で困ったことというと，小さな子供を育てながらでは研修会に参加したくてもなかなか参加できないという事である．研修会の多くは週末や祝日に開催されるが，その時は保育園もお休みで子供を預ける場所がなく，参加が叶わないという経験を何度もした．学ぶ意欲があるママセラピストも多く存在するが，参加が叶わない．

2016年4月に四国を離れ，5月より現在の職場で勤務をしている．京都での勤務が始まった頃，娘の体調不良が続き，就職早々にお休みを何度か頂かなければならない状況が続いた．また職場に迷惑をかけるのか？そんな私に先輩パパセラピスト（現職場科長）からの一言「あなたはこれから長く一緒に働いてもらいたい職員です．焦らず着実にやって行きましょう．今はお子さんのことを優先させご自身もゆっくり疲れを取ってください．」何度も読み返し泣いた．

子育てしながら働くということを考えるとき，自分一人の力で全てをこなそうとすると決して上手くいかない．もちろん本人の努力も必要であるが，一番の理解者であるパートナーや，両親，同期，同僚，職場の協力なしではうまくいかない．

そして女性自身がどのようなライフプランなりキャリアプランを立てているのか，それを実行するためには何が必要でどの部分の支援が必要なのかをもう一度見直し，自分が何をしたいのか，自分がプロフェッショナルとして何を求めているのかプライオリティを置く必要があり，自身の意志と努力を忘れてはならない．

最後に重要なことは「周りへの感謝の気持ち」である．理解されない，サポートがないと現場に働きやすい環境を求めるばかりではなく，女性自身の改革も必要である．

◆略歴

2004年作業療法士免許取得，急性期病院，一般病院，訪問リハビリを経験し現在に至る．
現在は主に，がんリハ・リンパ浮腫・ウィメンズヘルスに従事している．